

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100784		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台北郷		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区入下800番地		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyouCd=4572100784-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは山間部にあり、周囲の季節感あふれる風景が中庭から広がっています。中庭の木々・草花を見ながら、利用者と共に過ごせる空間があります。ホーム内の手入れ・草取りなど、地域の方々がボランティアで環境整備をしてくれますし、家族や近所の方々の野菜・食べ物の差し入れや面会時には御家族と利用者・職員で食事をする機会も持っています。また、利用者の好きなことを一緒にしたり、その人らしさが出せるようなケアに心がけ、その人の立場を尊重し、挨拶や笑顔を大切に取り組んでいます。お互いに支え合う関係が継続できるように、日々の生活を大切にして、職員も各研修に参加したり、資格取得を目指し、ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を理念にかかげ、管理者と職員は常に利用者の立場にそったケアに努め、食事、入浴とあらゆる場面で実践している。ほとんどの利用者が地元の方で、ホームと地域とのつながりは強い。近隣住民との関係も良好で、災害時の連絡網も確立され、安心につながっている。また、職員のケアに対する意識も高く、毎日交代で作る食事は、いかに楽しくおいしく食べてもらえるか、それぞれが工夫を凝らしており、職員同志向上につなげている。ホームの特徴として、職員と利用者の気分転換の意味からも、外出支援を多く取り入れ、ドライブや地域の祭り、利用者の希望の場所など、天気や状態を見ながら出掛けしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や職員は地域と関わっていくうえで、当事業所独自の理念を作り、いつでも確認できる場所に掲げ、管理者・職員全員でその理念の下で取り組んでいる。	利用者本意の介護を基本としており、1日の流れがゆっくりしたものとなっている。管理者と職員は常に振り返り、反省も踏まえながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民より自宅でとれた野菜等を頂いたり、庭の手入れにも定期的に来ていただいている。納涼祭の参加も呼びかけ、買い物や散歩などで交流も図っている。	利用者の多くが地域の方たちであり、顔なじみの方が通りがけに、勝手口から声をかけて立ち寄ることもあり、来訪者も増えてきている。ホームからも地域の催事には積極的に参加し、交流は日常的なものとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに、研修報告や地域の人々との交流を通して、認知症の人の理解等に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価の内容や外部評価の結果を説明し、公表している。また、参加メンバーからの意見や要望等をサービス向上に生かすようにして、ケア会議で全職員に報告し、話し合っている。	推進会議の日程は、ホームの行事に合わせているため、不定期の開催となっている。委員の参加も開催日によって異なるが、会議では意見や疑問なども出され、サービスの向上に生かすよう努めている。	運営推進会議の意義をいまいちど話し合う機会を設けることで、委員の意識の向上を図るとともに、会議の定期開催につながることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホームの行事や取り組みについて、相談したり、案内したりして協力関係を図っている。必要な時は出向くこともあるが、もう少し連携出来るように努力する必要がある。	町の担当者とは、必要時に連絡・相談はしているが、ホームの実情を把握してもらうための情報交換が希薄となっている。	ホームが抱えている課題や制度変更への対応など、問題解決につなげるためにも担当者との連携を密に取っていく取組を望みたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を明示するとともに、代表者及び全職員で理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の尊厳を大切にしたいケアに取り組んでいる。夜間、居室での危険行為防止のため、離床センサーを導入しているが、利用者にも違和感はなく安心につながっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて、虐待に関する意見交換を行い、虐待を見過ごさないように、利用者の身体や精神の状態に注意を払っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議等で、管理者及び職員と権利擁護に関する情報や意見交換を行っているが、権利擁護に関する制度の理解がやや不足している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明等は入所時に行っており、変更時もその都度説明して了解も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や行動の変化等に注意して、本人の思いに添うように努め、運営推進会議や行事・文書等で、認知症の方の思いを知る機会を設けている。	家族からは、来訪時に要望や意見の表出がある。利用者の身体面での気づきを職員に伝え、病院受診へとつなげることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の利用者との関わりの中で、各職員の気づいたことやアイデアを取り入れ、日常の業務に反映させている。	気づきやそれに対する提案など、職員の意見は会議の中で全員で話し合っている。ベッドからの転倒防止のため、センサーマットよりも早い段階で察知できる離床センサーが取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の職場環境や状況に留意しながら、働きやすい職場環境に努めている。また、その都度相談もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は、必要に応じて計画し、それに伴う勤務体制にも配慮している。資格習得のための合同の勉強会も開催されており、研修の結果・報告も毎月のケア会議で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、同業者との管理者会議を開催し、意見交換を行い、サービス向上に努め、会議等で職員間で共有して、他の施設の行事等の参加で交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、本人の生活状態の把握に努め、本人より不安や要望などを聞きながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、家族に当グループホームを見学していただいたり、家族の意見や要望を聞きながら、職員間でも事前に話し合い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談の中で必要なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自然と身についている行動・しぐさ「編み物、食器拭き、皮むき、洗濯物たたみなど」を職員と共に行ったり、利用者の言葉や笑顔に励まされたり、笑ったりして支え合う関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の生活の出来事や気づいたことを共有し、家族の協力を得て、一緒に本人を支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで墓参りや故郷に行ったり、馴染みの人と面会したり、家族の協力を得て帰省され、親戚や近隣の方々と交流されたりして、関係が途切れないように努めている。	利用者の思いを家族に伝え、一緒に同行してもらい、なじみの場所に出かけたり、地域の友人が来訪するなど、継続的な交流が出来るよう支援している。利用者が元気なうちに、それぞれの思いの場所に出かけることも計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に会話したり、中庭でボール遊びをしたり、外の景色を眺めたりして、利用者同士がふれあい、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても本人の状況や把握に努め、必要な情報の提供や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、利用者の言葉・表情・行動等から本人の真意を考え、それらを家族に伝え、情報を得ながら本人本位で検討している。	直接訴えることのできる利用者が多いが、困難な場合は、表情や動作の変化を見逃さないことで、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と直接会話したり、家族の来所時に生活歴や当ホームでの生活や言動に関する意見を聞いたり、ケアマネからの情報を踏まえながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な一日の流れはあるものの、一人ひとりの体調に配慮し、出来なくなったことよりも出来ることに着目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向も踏まえ、ケア会議等で個々の利用者の問題点について解決策や意見を話し合い、計画を作成し、日々のケアに活かすように努めている。	日々のケアの中でモニタリングを行い、3か月ごとに見直しをしているが、利用者、家族の要望や意見、また、状態の変化に応じた見直しも適時に行い、本人本意の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・健康状態・日々の様子や言葉・エピソード等を記録し、申し送ったりして、全職員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるように、利用者一人ひとりに対応し、本人のニーズに出来るだけ近づけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員・消防団も入られ相談することもある。防災訓練時に、近隣の方々への呼びかけや社協のボランティアによる窓拭き、地区住民による庭清掃等を自主的に行っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人または家族の希望するかかりつけ医となっており、体調によっては医療機関や家族と連絡を取りながら、適切な医療を受けられるように努めている。	法人の方針として、受診はホームが支援している。かかりつけ医、家族、ホームとの連絡、報告も密に行っており、情報の共有も確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に個々の利用者の健康管理や状態の変化に応じて、その都度看護師に相談し、看護師がいない時は連絡をとって指示を仰ぎ、申し送り「記録」をしながら常に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の状態を報告するとともに、面会時には、病院からの情報を得て、相談に努めている。退院の見通しがついたときは話し合い、退院の受け入れ体制を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を追って本人・家族と話し合いながら、また、医療機関と相談してケアに努め、家族の協力も得ながら取り組んでいる。	入居時に本人、家族との話し合いはしている。状態変化が見られる時は、主事医、協力医の判断を仰ぐとともに、家族を交え話し合いをして、方針の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を作成し、職員は、救急法研修等に参加しながら、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が2～3回、利用者とともに役場、消防団、業者の方々の協力を得て、避難・消火・通報訓練を行っている。また、近隣の方々の協力も得て、連絡網を作成している。	訓練後の反省点を全員で検討し、改善することで、次の訓練に生かす取組をしている。地域との日ごろの交流で、ホームの存在は周知されており、近隣を含め、協力体制が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要な時も、本人の気持ちを大切に してケアを心がけたり、自己決定しやすい声 かけをするように努めている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、 また、それぞれの歴史を知ること、人格を 尊重したケアを心がけている。方言で話して いる中にも温かみがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	個々の利用者に合わせて声かけしたり、聞 こえづらい時は、筆談やゆっくり話しかけたり、 意思表示の困難な利用者には、表情や 態度で確認しながら接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあるものの、 一人ひとりの体調や気分配慮しながら、 本人の希望も踏まえて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	自分で行える利用者は、本人の意向で着替 え等をさせている。散髪は、職員が行った り、行きつけの美容室にきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者と職員が隣同士で食事を摂ったり、 下膳してくださったり、野菜の皮むきを手 伝っていただいたりしている。また、食器 拭きや台拭きもしていただいている。	「いつもおいしい料理で、食事の時間が待ち 遠しい」との利用者の言葉があった。男性と 女性とで2つの食卓に分かれていたが、職員 も交えて会話を楽しみながら、それぞれの ペースで食べられるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取状況を毎日チェックし、記録してい る。嚥下状態の悪い時は、食事形態を変更 したり、とろみをつけたりして対応している。 また、水分量の少ない時は、本人の好みの 飲み物を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後の歯磨きやうがいの声掛け・準備・見 守りを行い、それらが困難な方には、声掛け にて口腔ケア用のティッシュで行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない利用者は、日中定期的にトイレ誘導したり、本人の行動を見ながら声掛けしたりして、なるべくトイレでの排泄が行えるように努めている。	昼夜とも、おむつ使用の利用者はおらず、布パンツでの排せつ支援を行っている。2週間前に入居された利用者は、リハビリパンツを使用しているが、トイレでの排せつが自立しているため、布パンツへの移行を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食事を取り入れたり、ヨーグルトやヤクルトなどの水分補給を行ったり、散歩や軽い運動も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	失禁等の利用者の場合は、その都度入浴やシャワー浴をしていただいたり、希望があれば、本人の希望に沿って、入浴できるように心がけている。	ゆっくり入浴してもらうため、1日4～5名の入浴支援をしているが、毎日入浴できる体制は整っている。利用者は、ゆず湯などの季節風呂も楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自力歩行ができる利用者は、本人のペースで好きな時に休まれている。また、車椅子の利用者は、体調や様子を見て休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を見て、薬が変更になったりした時は、申し送りノートに記入し、職員全員で確認合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けを行い、散歩・ドライブ・買物等に出かけている。また、利用者全員で楽しめるボール遊び等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物に行きたい利用者や花見、墓参り等を希望される利用者がいたり、天気が良い時は、できるだけ出かけるようにはしているが、職員の勤務体制を見ながら対応している。	外出の機会が多いことがホームの特徴となっている。地域の行事参加や買い物、ドライブ等、希望に沿った支援をしている。調査日当日も、午後から紅葉を見に出かけていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行く時は、しっかりされている方であれば、財布を持って買物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、本人に電話番号を聞き、カルテ等で確認した上で、本人に受話器を持って話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や色紙で作った飾り・絵・写真等をホールや玄関などに飾り、不快や混乱を招かないように、居心地よく過ごせるように心がけている。	食堂兼居間は厨房が一体となっており、生活感があり、くつろぎの空間となっている。思い思いの場所で編み物や利用者同士で談笑する光景があった。温度、湿度調整は特に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にベンチを置いたり、利用者で気の合った同士で、好きな場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族と相談して、自宅で使い慣れた物や家具・記念の品物・写真等を持ってきていただくようお願いすることもあるが、それが難しい利用者は、ホームの方で工夫している。	入居前から使用していた家具や生活用品を持ち込んでもらっている。家族の写真や趣味のものが飾っており、個性的な居室づくりの支援をしている。トイレの足元には、防寒のためのヒーターを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はあまり広くないが、見守りしやすいように、一人ひとりの能力に応じた居室の配置等を考慮し、トイレの表示や表札の設置をしたり、「手は離しても目は離すな」を心がけて、本人のペースで行動出来るように努めている。		